映像用シナリオ

空飛ぶ金魚

景山伸子ナディア

人　物

藤岡麻央里（まおり）（３０）詐欺師

小川洋二（４５）大学教授

嶋田まおり（７）小学生

病院スタッフ

金魚ミュージアム店員

○榊スキンケアクリニック・待合室・中

Ｔシャツとジーンズ姿の藤岡麻央里（３０）がソファーに座っている。

スタッフの声「藤岡さん、藤岡麻央里さん」

ソファーを立つ麻央里。

受付にいるスタッフ、麻央里を見て

スタッフ「こちらいつものビタミン剤と美白クリームです。診察券お返しします」

白い紙袋と診察券を受け取る麻央里。

診察券には『藤岡麻央里』と表記。

○麻央里の家・部屋・中（夜）

６畳のワンルーム。棚の上にブランドバッグ、シンプルなバッグ、可愛いバッグなど系統の違うものが並ぶ。

机でパソコンを広げている麻央里。

画面に『高下２５０万、山田３００万、林２２０万』と書かれている。

麻央里、『小川５００万』と書き足す。

○ＪＲ品川駅・新幹線乗り場・前（朝）

『ＪＲ品川駅新幹線乗り場（北口）』と書かれた改札前に小川洋二（４５）が立っている。垢抜けない格好でショルダーバッグをつけている小川。

巻き髪でワンピース姿の麻央里がやって来る。手には可愛いバッグと紙袋。

麻央里「小川さん」

小川「優花さん」

麻央里、紙袋から『東京キャラメルクッキー』と書かれた箱と金魚が描かれた小さな紙袋を取り出す。

麻央里「これ、お姉さんにどうですか？　甘いもの好きで、金魚グッズ集めてるって言ってたから」

小川「喜ぶよ！　ありがとう。じゃあ、行こうか」

改札へ向かう麻央里と小川。

○走る新幹線（朝）

○奈良公園・前

鹿のいる道を歩く麻央里と小川。

麻央里「ツノ、結構大きいんですね」

小川「ツノと言えば、シェイクスピアの作品にも“角が生える”って表現が結構出てきて。地中海付近では……あ」

しまったという顔をする小川。

小川「また研究の話を……。ごめん。こういうのがダメなのに」

麻央里「ううん！　もっと知りたいです。小川さんの好きな世界」

小川「そうなの？」

麻央里、笑顔で頷く。

○ミナーラ・入り口・前

汗を拭いながら歩く小川と麻央里。

麻央里「今日はお姉さんにご挨拶と……」

小川、バッグをポンポンと叩く。

小川「権利書はここに。判が揃ったら実家が１０００万で売れるから、俺には５００万」

麻央里「本当に私たちが結婚式と旅行に使っても……」
小川「大丈夫。死んだ親父もお袋も喜ぶだろうし。共同の通帳に入れておくね」
麻央里「ありがとう。お姉さんたち、移住って来月でしたっけ？　オーストラリア」
小川「そうそう。引越し前に会えそうで良かった」
ニヤッと笑う麻央里の口元。
足を止める小川。
嶋田まおり（７）が建物の端でしゃがんでいる。
小川「どうしたんだろう……」
周りを見渡す小川。
小川「親御さんいないのかな。ちょっと行って来ていい？」
麻央里「お姉さんのところは」
小川「ごめんね。すぐ戻るから」
麻央里「あっ……」
小川、駆け出す。舌打ちする麻央里。

○同・広場

ベンチに座るまおりの服装は、汚れ気味。

麻央里と小川、まおりを見る。

小川「１８時まで？　まだ２時間もある」

まおり「気にせんでええよ」

小川「気にするでしょ。あ、名前はなんていうの？　おじさん小川洋二って言います」

まおり「……しまだ、まおり」

麻央里、小さく驚く。

小川「まおりちゃん？　珍しい名前だね」

まおり「変やろ？　よう言われる」

小川「変じゃないよ。いい名前。こちらは」

麻央里「山崎優花です」

まおり「東京もんか」

小川「あ、図書館はどう？　本もあるし」

まおり「図書館はあきてん」

小川「あきてんって……」

前を通る家族連れ。

子供は金魚柄の袋を持っている。

まおり、壁の金魚ミュージアムのポスターに駆け寄り、じっと見る。

小川「どうするかな……」

麻央里「警備員さんとか、お店の人に任せたらいいんじゃないですか」

小川、考え込み、スマホを見る。

小川「姉さんとの予約は19時だし、もう少し一緒にいちゃダメかな？」

麻央里「どうして私たちが」

小川「なんか気になって。もちろん食事には間に合うように行くよ。どうかな？」

麻央里「……じゃあ、はい」

小川は微笑み、まおりのもとへ行く

小川「ここ行く？　金魚ミュージアム」

まおり「ええの！？」

喜ぶまおり。麻央里、ため息をつく。

〇同・金魚ミュージアム・前

『奈良金魚ミュージアム』と表記。

○同・金魚ミュージアム・中

煌めくオブジェの中を泳ぐ金魚。

目を輝かせるまおりの後ろをついて歩く麻央里と小川。

小川「ここを出たら、家まで送りたい」

麻央里「家まで！？」

小川「親御さんの様子を見て、心配だったら、専門家へ連絡しておこうと思う」

麻央里「どうしてそこまで……」

小川「子供はみんなで守らないと」

麻央里、カバンをぎゅっと握る。

麻央里と小川を手招きするまおり。

まおり「来て！　宝石と金魚！」

小川「はーい」

小川、まおりのもとへ小走りする。

それを眺める麻央里の後ろ姿。

トリックアートの前でポーズを取る小川とまおり。

小川のスマホの着信音が鳴る。

小川「姉さんからだ。ちょっとごめん」

ミュージアムの端へ移動する小川。
まおり「あっちは、花と金魚や！」
走り出すまおり、つまずいて転ぶ。
麻央里、はっとするが立ち止まる。
我慢するも泣き出すまおり。
店員がまおりのもとへやってくる。
店員「大丈夫？　怪我はない？」
頷くまおり。スタッフ、麻央里を見て
店員「お母さん、大丈夫なようです」
麻央里「え……私、お母さんじゃ」
店員「失礼しました。てっきりそうかと」
まおり、笑い出す。
まおり「お母さんやって」
クスッと笑う麻央里。
麻央里「さっきまで泣いてたのに」
まおり「だっておもろいやん」
麻央里、そばへ行き、まおりの手を引き、立ち上がらせる。
スタッフの方を向く麻央里。
麻央里「ここって終了時間は何時ですか」

スタッフ「１８時になります」
麻央里「ありがとうございます」
麻央里、横を見るとまおりがいない。
ミュージアム内を探す麻央里。
壁一面の花々と水槽の前にいるまおりの後ろ姿。
ほっとする麻央里、まおりの横に来て
麻央里「探すでしょ」
まおり「探すの？」
麻央里「まあ、一応」
まおり、頬が緩む。
麻央里「ねえ、家族ってお母さんだけ？」
頷くまおり。
麻央里「……男の人が来る時に外に出てって言われるの？」
まおり、驚き、麻央里を見つめる。
まおり「……お姉ちゃんは、しあわせ？」
麻央里、ニコッと微笑む。
麻央里「幸せ。ぜーんぶ自分の好きにできてる」

まおり「ふーん」
まおり、花の水槽を泳ぐ金魚を見る。
まおり「あっ……」
水槽を指差すまおり。
水底に死んだ一匹の黒い金魚。
麻央里「あ……」
まおり「死んでるわ……」
麻央里「強くならないと生きていけないんだよ」
まおり「そんなん……むずかしい」
麻央里、金魚が描かれた小さな紙袋を出し、まおりに渡す。
麻央里「これ、あげる。お土産」
まおり「おみやげ？」
まおり、袋から空飛ぶ金魚のキーホルダーを取り出す。
まおり「金魚が空とんどる！」
まおり、キーホルダーを飛行機のようにしてはしゃぐ。
それを眺め、遠くを見つめる麻央里。